

この度は突然のお願いですが、賛同頂きありがとうございます。

サンダーソニアについては、ネット上でもイロイロな情報があります。

今回僕からのお願いは、「切り花」生産者、いわゆるプロ向けのお話しではなく、園芸を趣味とする方を対象として、サンダーソニアを「鉢花で楽しんでもみよう」というものです。

栽培のポイントを、温室がない場合で記しますので、参考にしていただければ嬉しいです。

今回お送りするサンダーソニアの球根は、市販されているV字形のモヤシのような物（右写真・上の球根）ではなく、「マーブル」と言われる玉形の小さな球根（右写真・下の球根。いわゆる「木子」と同じような性質の物）です。小さいですが、直径1cm以上あれば、30～40センチの草丈で、5～6月には数輪の花を咲かせるはずです。



今回はマーブルを10球送ります。

サンダーソニアは「春植え球根」という扱いで、植えつけ適期が3～5月です。ですが、この球根は乾燥に弱いので、届いたらなるべく早く植えつけてください。

10℃以下の低温に遭遇しないと萌芽しにくい性質もありますが、今回のマーブルは低温処理を既にしてあるようです。

今回は栽培開始時期による生育や開花の違いを見る実験と、栽培の失敗の保険として、2鉢に5球ずつ植えていただき、以下で説明するA、B、2種類の方法で栽培していただければと思います。

■植えつけ=これはA、B共通です

6号鉢を2つ用意します。

駄温鉢でも、プラ鉢（鉢底の穴が多いタイプ）いずれでもOKです。

用土は、過湿を嫌うので水はけはよいことが第一です。

市販の草花用培養土に、赤玉土中粒か鹿沼土中粒を2割ほど混ぜたものか、赤玉土小粒6~7、完熟腐葉4~3の配合土でもよいでしょう。

用土は新しいものを使ってください。

上記の用土であれば鉢底に入れるゴロ土は不要です。

用土がからからに乾いていたなら、霧吹きなどで軽く湿らせておきます。

元肥は入れず芽が出てから追肥として施してもよいでしょう。

球根を植える深さ（覆土の厚さ）は、5~7cmとします。伸び出した茎のつけ根付近から根が伸びるので、浅すぎると乾きやすくて生育に影響します。

球根を並べる間隔は、写真くらいでよいでしょう。くっつけない、広げすぎない感じで鉢の中央に5球、植えましょう。

栽培 A

「梅雨前に開花させることが栽培成功のポイント」ということですので、球根が早く生育を開始し、早く花を咲かせるための栽培です。

■置き場=日光不足で徒長させない

気温が低い間は暖房の効いた暖かい室内の南向きの窓辺などで管理してください。

室温は25℃前後が理想です。夜間は少し室温が下がっても大丈夫です。

室温が理想の温度に達しない場合は、

「鉢ごとビニール袋にスッポリと入れ」結び、保温するとよいでしょう。

密閉していると日中は温度が高くなりすぎるので、必ず換気用の穴やすき間をあけておきます。夕方から翌朝までは密封しましょう。

日中ビニール袋が曇るようなら、袋を開けて換気をしましょう。

ソメイヨシノが咲く頃になったら、ビニール袋から出し、日中は戸外に出して十分日光に当ててやりましょう。

夜間はまだ気温が低く、遅霜が降りる場合もあるので、室内に取り込みます。

4月下旬になれば戸外に置きっぱなしにして大丈夫です。

ただし、雨は嫌うので、雨よけがある場所や南向きの軒下に置くようにします。

■水やり

球根植えつけ後にたっぷり水やりします。

その後は乾かし気味に保ち、芽が出てからは鉢土の表面が乾いたらたっぷりを基本とします。

ビニール袋にスッポリと入れている時はとくに球根が腐りやすいので、袋に汗が着いたりして過湿にならないよう十分注意をします。

■肥料

芽が出てから開花し始めるまで2週間に1回、液体肥料（N-P-K = 6-10-5 など）を規定倍率のさらに2倍に希釈（2000倍）して、水やり代わりに施します。

栽培 B

サンダーソニアの一般的な栽培方法で、栽培 A の様にビニール袋で保温しません。栽培 A との比較を目的に、もう一つの鉢を使って行います。

■置き場

球根を植えた鉢は玄関など凍る心配のない場所で管理します。

凍るような低温にあうと球根が腐ってしまうのでご注意を。

4月に入ったら、戸外の日当たりと風通しのよい場所に出します。

雨が当たらないよう、雨よけがある場所や南向きの軒下に置くとよいでしょう。

霜には当てないように注意しましょう。

■水やり

寒い間は水やりは不要です。

4月に入って戸外にだしたらたっぷりと水やりをします。

その後は少し乾かし気味に保ち、芽が出てからは鉢土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。

■肥料

栽培 A に準じます。

以下病害虫、支柱立ては A、B 共通 です。

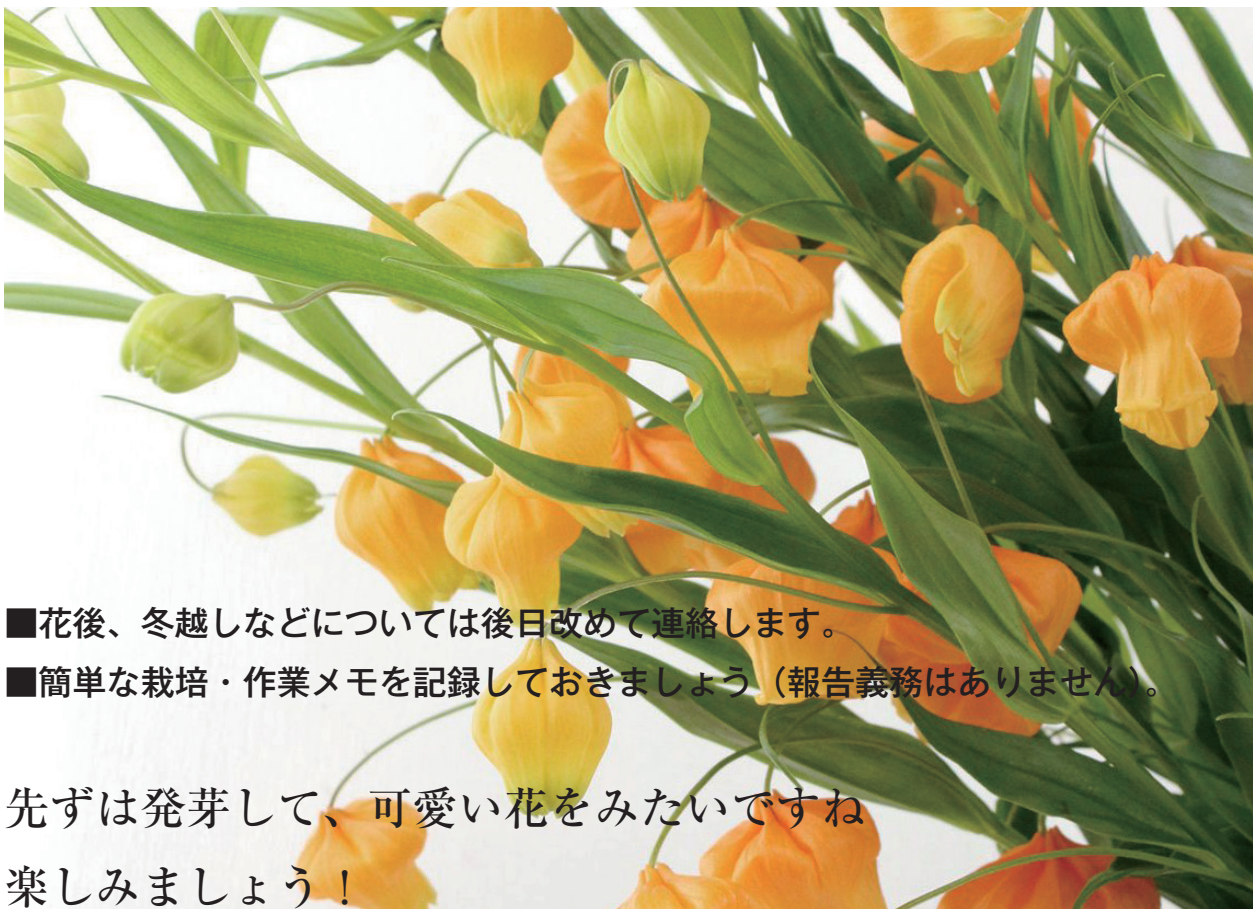
■病害虫

新芽にアブラムシが発生したり、梅雨どきに蕾や新芽をナメクジが食害したりすることがあります。よく観察し、適切に防除しましょう。

■支柱立て

サンダーソニアは茎が細い割に高くなるので、花が咲くと倒れやすいものです。1本ずつ支柱を立てるか、小さなあんどん支柱などで支えてやると安心です。ただ、今回の「マーブル球根だと30～40センチの草丈で、少数の花が咲く」らしいので、様子を見て対処すればよいでしょう。

以上、栽培 A、B 2案を記しましたが、僕自身も初めての事です。上手く行かないかもしれないという不安だらけですが、疑問、質問はメールで受け付けます。また、坂本先生のアドバイスと園芸ライター・高橋さんのご協力に感謝致します。



■花後、冬越しなどについては後日改めて連絡します。

■簡単な栽培・作業メモを記録しておきましょう（報告義務はありません）。

先ずは発芽して、可愛い花をみたいですね
楽しみましょう！